

5 G ビジネスデザインワーキンググループ（第 7 回）に対するコメント

令和 5 年 4 月 2 6 日

東京大学大学院工学系研究科 中尾彰宏

(1) 資料 7-2-1 (第 5 世代モバイル推進フォーラムミリ波普及推進アドホック提出資料 (説明資料)) について

9 頁のローカル 5 G とミリ波の親和性について賛同します。また、今後も高周波数に関しては、自営網の普及を推進して周波数の有効利用を図る必要があります。

一方で、ローカル 5 G の利活用や免許の取得には、更なる敷居を下げる必要があると思います。

Sub 6 では、ようやく機器も各ベンダーから供給され始めましたが、ミリ波の機器は基地局も端末の供給は課題が多くある状況です。例えば、キャリアからの構築支援により、公衆網とローカル 5 G の設備共用などが考えられるでしょうか。

また、免許付与において、機器の移動可能性 (ある程度移動や暫定設置が可能) を確保する必要があると思います。これに対しては是非前向きな検討と至急対応をお願いできればと思います。

ローカル 5 G は我が国が誇る素晴らしい制度だと思いますので失速することのないように推進していただけますと幸いです。

(2) 今後の論点整理に向けて

NTN による拡張カバレッジや安全信頼性向上は、国民の最大の関心事であることを考えると、国民の安全・安心を守るためのユースケースに関しては、周波数割り当ての際の優遇を考えても良いと思います。

NTN に関しては、安全保障の観点も重要です。例えば、スターリンクなどの海外サービスが普及の兆しがあるところ、その安全性や事故による国民に与える影響などは議論が進んでいません。国民が海外サービスに依存をする前に品質の確認や事故時の対応などについて十分議論が必要と思います。

現在の論点には、プレゼンテーションで多く取り上げられたローカル 5 G の免許条件 (Sub 6, ミリ波) についての記載がありません。上記 (1) にもありますが、周波数有効利用の観点やユースケースの拡大の観点からは、公衆網 5 G だけではなく、ローカル 5 G を含め、普及状況を確認しながら、さらに周波数割り当ても考える必要があると思います。国民の関心事ですので、必ずこのポイントは論点に入れていただけますと幸いです。